

第3次やまなし食育推進計画に係る数値目標の進捗状況（令和元年度）

資料2-1

○各指標項目ごとの達成状況

◎：目標を達成している項目 ○：順調に進捗している項目 △：進捗が遅れている項目 ー：評価できない項目

施策区分	NO	指標項目	策定時 (H26)		平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	数値目標 (R2)	進捗状況	計画に対する実績の分析	関係課室等
			男子	女子									
1	生活の場面やライフステージに応じた切れ目のない食育の推進	朝食を毎日食べる子ども(中学校3年生)の割合 (%)	男子	85.4%	82.6%	84.2%	84.0%	83.2%		90%以上	△	【分析】 中学3年生の男子は84%前後で推移し、女子については減少傾向にあり、令和元年度は80%を下回る結果となった。また、男子の方が高い割合となっている。 【課題】 朝食を食べることの取組だけでなく、適切な就寝時間や運動の習慣化など基本的な生活習慣の確立を目指した総合的な取組が必要である。子どもだけではなく、親・家族等への正しい知識の情報提供や家庭状況や生徒の個別状況を把握し、個別指導が必要である。	健康増進課 保健体育課
			【参考指標】 年1.0%増	86.4%	87.4%	88.4%	89.4%	90%以上					
			女子	84.7%	83.6%	84.2%	83.5%	84.6%		90%以上	△		
			【参考指標】 年1.1%増	85.8%	86.9%	88.0%	89.1%	90%以上					
2	朝食を週5回以上食べる若者(20歳～39歳)の割合 (%)	男子	78.8%	74.4%	79.5%	78.6%	75.5%		85%以上	△	【分析】 受診者の年代や市町村によりばらつきはあるが、20～30代で朝食の欠食割合は高く、全体的な傾向に大きな変化は見られない。 【課題】 働く世代は、生活習慣病の発症リスクが高い年代であるため、今後も朝食の重要性について普及啓発を図る必要がある。また、働く世代の健康づくりを推進するため、従業員の健康保持・増進を実施する企業を認定・支援し、働き盛り世代の健康増進を図る必要がある。	健康増進課 市町村	
		【参考指標】 年1.3%増	80.1%	81.4%	82.7%	84.0%	85%以上						
3	家族と毎日、夕食を食べる子ども(小学校6年生)の割合 (%)	男子	79.4%	77.0%	79.3%	78.4%	77.6%		85%以上	△	【分析】 小学校6年生の男子は8割弱、女子は8割強が家族と毎日夕食を食べる結果となり、女子の方が高い割合となった。 【課題】 学童・思春期において、家族との共食を推進することは、適切な栄養摂取やこころの健康を育むとともに、若い時からの健全な食習慣の確立が、将来の生活習慣病の予防にもつながる。各学校でも親の帰宅時間、家庭状況及び児童の個別状況を把握し、個別指導が必要になると考えられる。	健康増進課 保健体育課	
		【参考指標】 年1.2%増	80.6%	81.8%	83.0%	84.2%	85%以上						
		女子	83.7%	81.5%	82.4%	80.1%	81.8%		85%以上	△			
		【参考指標】 年0.3%増	84.0%	84.3%	84.6%	84.9%	85%以上						
4	小中学校における農業体験の延べ実施回数(回)	3,739回	3,721回	4,289回(達成)	4,851回(達成)	4,763回(達成)		3,800回以上	◎	【分析】 H29年度から取り組む、県下全ての公立小中学校において児童生徒の食生活に関わる課題に対して具体的な目標を設定し、食育を計画して実践する「食育推進一校一実践」が定着し、地場産物である農産物の栽培、収穫体験を食育推進計画に取り組む学校が増えてきたことで目標を達成したと考えられる。 【課題】 積極的な取り組みが行われている地域や学校の情報を、今後も継続的に研修会等で共有し、取組を進める。	保健体育課 市町村		
5	県民(20歳以上)の1日の塩分摂取量(g)	10.5g	—	—	—	—		8.0g未満(R4)	—	【分析】 R2実施予定の県民栄養調査がR3に延期となったため、現状は把握できていない。 【課題】 H26県民栄養調査では、全国と比較、男女ともに高い状況にあるため、様々な機会をとらえ、食品に含まれる食塩量や減塩の工夫等の情報発信を行う。また、働き世代等の食生活では、中食や外食が多くなるため、「やまなししほルトメニュー販売整備事業」の推進を図り、食環境の整備を行う必要がある。	健康増進課		
6	運動や食生活等の生活習慣の改善に取り組んでいる人の割合(40～59歳)(%)	36.8%	39.7%	41.9%	50.2%(達成)	48.8%		50%以上	○	【分析】 健康に対する意識が高まり、増加傾向であるが、改善したい気持ちはあっても、仕事に追われ、なかなか実行できない様子がうかがえる。 【課題】 様々な機会を捉え啓発しているところである。働く世代は、生活習慣病の発症リスクが高い年代であるため、今後も朝食の重要性について普及啓発を図る必要がある。従業員の健康保持・増進を実施する企業を認定・支援し、働き盛り世代の健康増進を図る必要がある。	健康増進課 市町村		

施策区分	NO	指標項目	策定時 (H26)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	数値目標 (R2)	進捗状況	計画に対する実績の分析	関係課室等
2 地産地消の推進や生産者と消費者の交流の推進、食文化の継承	7	学校給食における地場産物の使用割合（食材ベース）（%）	25.7%	27.0%	31.7% (達成)	23.6%	27.5%		30%以上	○	【分析】 H29に31.7%を達成し、地場産物を購入するための体制づくりが進んでいる地域や学校が増えてきていることが伺える。しかし、大量で安定的、継続的に食材を確保したり、費用等の課題もある中で、取り組みやすい地域や学校とそうでない所がある。その年の天候により生産量や収穫時期が変動し使用料の増減が出てくることが考えられる。 【課題】 地域や学校に対し、学校給食において継続した食育推進を目指す上で地場産物使用の有効性を更に周知していく必要がある。	保健体育課
	8	山梨県食育推進協議会の構成団体が実施する「伝統的な料理や作法を継承し伝える活動」の参加人数（人）	13,361人	13,795人	13,998人	16,550人 (達成)	12,068人		14,000人以上	△	【分析】 郷土食等に関する事業を重点的に展開した結果、実績数は順調に増加していたが、R1は食育推進全国大会が本県で開催されたため、構成団体で行う活動が減少し、参加者数も減少した。 【課題】 食文化の継承を推進するため、これまでに認定した「やまなしの食」等を活用した取り組みを展開していく。	県民安全協働課 健康増進課
3 食育県民運動の展開	9	食育推進応援団の登録件数（事業所）（件）	249事業所	286事業所 (達成)	297事業所 (達成)	300事業所 (達成)	310事業所 (達成)		275件以上	◎	【分析】 新規事業者の登録もあるが、既登録事業者の事業所数の増加により実績数が増加している傾向にある。 【課題】 新たな事業所の登録に向け、積極的に周知を行っていく必要がある。また、食品製造業者の登録がないため、重点的に働きかけを行う。	県民安全協働課
	10	食育推進ボランティア（食生活改善推進員を除く。）の登録人数（人）	1,284人	1,817人 (達成)	1,759人 (達成)	1,665人 (達成)	1,512人 (達成)		1,400人以上	◎	【分析】 山梨学院短期大学等の学生が積極的にボランティア登録しているため、目標を達成した。学生数や登録団体の数え方により、数字が大幅に変わることがある。 【課題】 今後もボランティアの周知を図り、学校関係や事業所等へ積極的に新規登録を働きかけを行う。	県民安全協働課
	11	食育月間中に市町村食育推進計画に基づき市町村が実施する啓発活動数（件）	109件	140件 (達成)	138件 (達成)	195件 (達成)	155件 (達成)		120件以上	◎	【分析】 県内27市町村で食育推進計画が策定されており、計画に基づいた取り組みが地域で行われたため、目標値を達成したと考えられる。 【課題】 食育推進計画の更新を支援し、地域での活動を促進していく必要がある。	県民安全協働課 市町村
4 食品の安全性や栄養等の食生活に関する情報の提供	12	食の安全・安心ポータルサイトへのアクセス数（件）	9,867件	10,336件	13,822件 (達成)	11,589件	10,823件		12,000件以上	△	【分析】 注目する自主回収情報がある年はアクセス数が増加する傾向にあるため、年次変動があるが、自主回収以外の情報ページへのアクセスも年々増加傾向にある。 【課題】 ポータルサイトの認知度が低いため、様々な機会を活用し、周知を行っていくとともに、情報ページの充実を図る。	県民安全協働課
			【参考指標】 年427件増	10,294件	10,721件	11,148件	11,575件	12,000件以上				

○推進計画における数値目標に対する進捗状況

区分	項目数	構成比(%)
目標を達成している項目	4	29%
順調に進捗している項目	2	14%
進捗が遅れている項目	7	50%
評価できない項目	1	7%
計	14	100%